

高等教育質保証学会第4回大会（26年8月23日）

<先端研究セッション> 留学のアウトカムと国際的な質保証

アジアと世界を繋ぐ 透過性のある教育フレームワークの可能性

堀田泰司

広島大学副理事(国際担当)、国際センター准教授、
短期交換留学プログラムディレクター、AIMS-HU学生交流事業主幹、
(大学院)国際協力研究科高等教育開発論兼任

* 本発表の内容は日本学術振興会科学研究費助成事業基盤研究(B)「アジア高等教育における透過性のある教育フレームワークの構築に向けた比較研究」(課題番号24402045) [実施期間:2012年~2014年度] の研究成果に基づいている。

アジア共通の透過性のある高等教育の枠組みの発展

- 世界の高等教育は、近年、学生の流動性を飛躍的に拡大した。しかし、大学間では、制度、内容等の違いがより鮮明になり、「相互不理解」を生み、情報不足による不公平な単位・成績等の互換が行われるケースもある。
- 一方、欧州地域では、域内の学生交流事業であるエラスムス (ERASMUS¹) プログラムの経験を生かし、ボローニャ・プロセス(欧州高等教育改革)を国レベルで展開し、学生の様々な流動性の発展と共に、ECTS² (欧州単位互換制度) やそのほかの共通の枠組みを活用し、域内の信頼関係を向上させた
- アジアでは、特にアセアン教育大臣機構(SEAMEO³)等を中心にアジア地域全体の「Harmonization」プロセスの試みが始まり、UCTS⁴ (UMAP⁵ 単位互換制度) やAUN⁶-ACTS⁷ (アセアン単位互換制度) 等が開発され、1つのアジア高等教育圏の構築を目指し「透過性のある枠組み」を構築しようと様々な「対話」が行われている

透過性(Permeability)のある教育フレームワークとは

透過性のある教育フレームワークとは、異なる教育制度間であっても、共通の測定単位を全ての教育機関並びに政府が使用することにより、相互の教育の中身がより明確に見え、異なる教育内容を相互に十分に理解した上で、教育交流を行うことができる共通の枠組みである。そして、それは、決して大学の教育内容を地域全体で統一するためのツールではなく、むしろ、お互いの違いをより明確に公平に理解することにより、留学する魅力が明確に理解でき、信頼関係がより強固になるという利点をもっている

本発表の流れ

- I. アジアにどうして透過性のある地域共通の教育フレームワークが必要なのか
- II. 欧州における共通の教育フレームワークから学べること
- III. アジアでの単位互換制度の発展
- IV. アジア共通単位互換制度の課題
- V. 「アジア学術単位」(AACs⁸)の概念とその効果と課題
- VI. 学生のモビリティ促進のためのAACsに関する取り組みと今後の課題

1. アジアにどうして透過性のある 地域共通の教育フレームワークが必要なのか

アジア域内の学生の流動性に係る課題

背景：アジア諸国は、これまでのエリート大学間だけでなく、多くの優秀だが国際的には無名な大学も含んだアジア高等教育圏内の流動性の向上のために、域内共通の教育フレームワークの構築を模索中。しかし、域内の実質的な相互信頼関係は、まだ出来ていないため、その実現は難しい

課題：(1) 高等教育機関、並びに政府間の**キャパシティー(力量)**の格差により、(2)相手(の教育内容・質)を知る**情報が不足**しており、(3)世界的には無名だが活気があり、質の良い大学が相互に**認知される手段が限られている**

アジア共通の透過性のある教育の枠組み構築による効果

- 1. Student Centered Mobility:** 学生の教育経験の互換、換算等に関する公平な判定ができ、学生は、自由に域内での単位互換や進学、留学ができるようになる
- 2. Educational Mobility:** 各大学は、教育交流の中で各々の機関の特徴をより明確化することができ、学生は、複数の大学から多様な特色のある教育を受けることができる
- 3. Regional Mutual Trust:** 大学間には、お互いの相違を明確に把握し、信頼関係を向上させ、学生も、アジアの文化や価値観の違いを理解し、域内の相互理解を向上させることができる

II. 欧州における共通の 教育フレームワークから学べること



欧州の重要な実践と経験（パート1）

1. **Compatibility:** 2サイクル, ECTS, Diploma Supplement, European Qualification Framework(and TUNING⁹?)等による、教育の枠組み、量、内容、そして学習成果の互換性が向上。欧州全域の正規単位制度として、ECTS (欧州単位互換制度) が発展
2. **Teacher Mobility:** エラスムスを中心とする学生交流は、教員の交流を同時に促進したことで、教員間並びに学部間の信頼関係をまず構築した。学生の国際移動を促進する上で、教員の国際移動は、非常に重要
3. **Institutional Accountability:** 上記の制度改革を全学的に実施し、学習時間数と細かいコンピテンシーに基づくLearning Outcomes (学習成果) の記載と評価活動による質の保証を1つの高等教育機関の共通の教育フレームワークとして構築した

欧州の重要な実践と経験（パート2）

4. Transparency for Regional Mobility with LLL: 留学生政策や教育交流だけでなく、域内を移動する学生、教員、職員、労働者、専門家等の流動性を意識し、欧州全域の生涯教育環境づくりを目指した。また学生の流動性や雇用を促進するために活用される新たな互換ツールとして学習経験（学習時間と成果）を詳細に説明したDiploma Supplementが発展
5. Joint Study & Mutual Trust: 教員が協働で開発したジョイント・スタディー科目の発展は、相互信頼関係構築に非常に有効であった

ECTS（欧州単位互換制度）から何が学べるか

1. ECTSは、70年代から使われてきた欧州地域の極めて数学的な計算から考案された単位互換制度。エラスムス事業を通して80年代から発展。Bologna Processでは、欧州全体の正式な単位制度となる
2. 1 (one) ECTS=25-30学習時間数（講義、宿題、試験等に学生が費やす全ての時間数）
3. この25-30学習時間数/ECTS とは、欧州人の平均的な年間労働時間数である1500～1800時間を 60 pointsで割った数字である
4. 60ポイントは、欧州の様々な制度間でも換算しやすい数字が「60」であるから設定された。60は、とても約数が多い（60の約数は1,2,3,4,5,6,10,12, 15, 20, 30, 60）

III. アジアでの単位互換制度の発展



欧州のエラスムス事業とECTSのアジアの学生交流への影響

欧州の学生交流とECTSの発展はアジア諸国に同様の発展を期待させた。

1. 90年代には、**UMAP** がアジア・太平洋域内の学生交流促進を目指し、欧州のECTSをモデルにUCTSを考案し普及
2. 2009年に入り、アセアン諸国の**AUN** (ASEAN大学ネットワーク) が AUN-ACTS (ASEAN単位互換制度)をECTSをモデルに開発し、26メンバー大学間の学生交流に活用
3. 2008年からは、マレーシア、インドネシア、タイの政府が学生交流の促進を目指し**M-I-T¹⁰ Project**を開始した。そして2013年からはベトナムが参加し、2014年からは、ブルネイ、フィリピン、日本が参加。参加国の拡大により**2013年より名称が「ASEAN International Mobility for Students」**(通称「**AIMS¹¹**」)と改名された
4. 同年、**ACD¹²** (アジア協力対話)がACD-ACTS¹³ (アジア単位互換制度)の基本概念を公表し、その後、ワークショップ等が開催されている。
5. 2011年には、中国、韓国、日本の高等教育機関が連携し、「**キャンパス・アジア (CAMPUS ASIA¹⁴)**」(修士課程のダブル・ディグリープログラム)が開始

2つのタイプの“ACTS”と旧UCTS

1. **AUN-ACTS**: (1) ECTSをモデルに, (2) 年間取得単位数=60 AUN-ACTS, (3) 1 AUN-ACTS=25-30 学習時間数 (15-18 授業時間数を含む(?)), (4) アセアン諸国の26大学間で使用

2. **ACD-ACTS**: (1) マレーシアの単位制度の概念 (?), (2) 年間取得単位数=30 ACD-ACTS, (3) 1 ACD-ACTS =40 学習時間数, (4) ACD の加盟国 (東、東南、南、中央アジア並びに中東地域の諸国) の全ての高等教育機関が対象

3. **旧UCTS (2012年まで)** : (1) ECTSをモデルに, (2) 年間取得単位数=60 UCTS, (3) 学習時間数による定義はない, (4) アジア・環大西洋地域のUM AP参加国の全ての高等教育機関が対象

2015年アセアン共同体構想とアジア高等教育圏の発展の可能性

- アジアでも、2015年のアセアン共同体構築に向けて、高等教育圏の構築を模索
- 2012年度よりSEAMEO（東南アジア教育大臣会議）では、高等教育の国際化の連携と教育の枠組みの構築を目指す。共通の単位互換制度の構築を模索（アジア開発銀行支援）
- アセアン諸国共通の教育フレームワークとしてのAC TFA¹⁵（アセアン学術単位互換制度）の発展の可能性とアジア開発銀行の支援による2つのプロジェクトの発展（透過性のある教育フレームワークの形成）

IV. アジア共通単位互換制度の課題

アジア地域の教育の枠組みに関する比較研究

1. 平成21年度文部科学省先導的大学の改革推進委託事業による「**ACTS (ASEAN Credit Transfer System)と各国の単位互換に関する調査研究**」
[実施期間:2010年2月 1日～3月 31日]

調査結果: “Comparative Table of 13 Asian Countries”を参照のこと(日本語版は、以下のアドレス)

http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/metadb/up/ZZT00001/ACTS_4_197_results.pdf

2. 日本学術振興会科学研究費助成事業基盤研究(B)「**アジア高等教育における透過性のある教育フレームワークの構築に向けた比較研究**」(課題番号24402045) [実施期間:2012年～2014年度]

2012年より11名の研究者により、アジア24か国・地域の高等教育の枠組みについて現地調査し、アジア全体の高等教育のフレームワークの相違について比較研究を実施した。研究対象国・地域は、インド、インドネシア、韓国、カンボジア、シンガポール、スリランカ、タイ、台湾、中国、日本、ネパール、バングラデシュ、東ティモール、フィリピン、ブータン、ブルネイ、ベトナム、香港、マカオ、マレーシア、ミャンマー、モルジブ、モンゴル、ラオス。(五十音順)

アジア高等教育における一般的傾向(Part 1)

1

1 単位 = 13-16 授業時間数

授業時間数の方が学修時間数 (student workload) より、より一般的に単位計算に使用されている

2

4年間の学士課程が多い

マレーシアやラオス等例外もある。また、医学部、工学部の多くは、5-6年

3

卒業単位数は、120 から150 単位 が多い (4年間の学士課程の場合)

4

(推定)学修時間数は 1単位 = 40-50 時間

(インターンシップ、実験、野外実習の時間数等から算出)

中国 (40-45), 日本 (45), カンボジア (45), インドネシア (46), マレーシア (40), フィリピン(51), シンガポール国立大学(39), タイ (45)

アジア高等教育における一般的傾向(Part 2)

5

多くは2学期制、1学期13-16週間

しかし、多くは、1学期14~16週間に集中している

6

相対的評価より絶対的評価がより使われている

しかし、成績評価については、大学や学部間でも異なる

7

学年暦の2つのタイプ

しかし、国、大学によって、その詳細な日程は大きく異なる (次の国別の比較表を参照のこと)

- ① ブルネイ、中国、日本、韓国、インドネシア、ラオス、シンガポール、ベトナム
- ② カンボジア、マレーシア、ミャンマー、フィリピン、タイ

2010年に提唱した課題と今後の方策の可能性について

① 単位互換: AACs (*Asian Academic Credits*)の活用

② 教育の質: 便覧、シラバス、成績証明書等における学修成果 (*learning outcomes*) の表記

③ 成績評価の互換: 相対的評価型の成績評価制度の開発と活用

④ 学年暦: 13-16週ではなく、7-8週間ごとの授業科目の開講による学年暦4区分制の導入

これまでのアジア共通の単位互換制度の課題

1 旧UCTS並びにAUN-ACTSは、欧州のECTSを模倣したもの。そして、ACD-ACTSは、独自の学習時間数に基づく(1 ACD-ACTS=40 学習時間数)

2 ECTSは、非常に様々な単位の換算に活用できるシステムであるが、欧州とアジアの高等教育で年間の学習総時間数は、異なり、ECTSの学習時間数の基本概念と同じとは言えない

3 旧UCTSやAUN-ACTSを活用し、年間60単位を取得要件にし、アジアの大学を一つの高等教育圏の枠に入れ、学位の価値を等価と見なすのは、大学間の教育内容や質が異なるので、難しい

4 アジアの多くの高等教育機関は1単位=約40-50学習時間という似通った制度を持っている

V. 「アジア学術単位」 (AACs) の概念と その効果と課題



AACs (アジア学術単位) の概念

13カ国における一般的な単位制度の基本的考え方;

1 AACs = 38-48 時間の学修時間数,

1

(授業時間数、課題やレポート作成等時間数を含む)

もし授業時間数だけによる規程が必要な場合は、次のような考え方が可能である

1 AACs = 13-16時間の授業時間数 + 課外学修時間数

(重要) AACsの概念をアジア諸国が採用した場合:

2

(1) 採用したアジアの大学間では、1単位の価値は等価となる

(2) アメリカとも交渉次第だが、おおよそ1単位は1単位で単位互換が可能

(3) 欧州とは1 AACs \doteq 1.5-1.6 ECTS、そして、英国とは、1 AACs \doteq 3.0~3.2 英国単位数(ECTSより換算)

世界の他の単位互換制度との換算の可能性

Nations & Systems	AACs	USA (約2/3)	ECTS	CLAR ¹⁶ (Latin America)	UK (CATS) ¹⁷
互換できる単位数	1 UCTS	≒ 1 credit	≒ 1.5 ECTS	≒ 1.5 CLAR	≒ 3 credits
学習時間数	38-48 時間	≒ 45時間	37.5-45時間	37.5-45時間	ECTSからの換算 (30 hours*)
授業時間数	13-16時間	≒ 15~16時間	-----	-----	-----

AACsがもたらす最大の効果

- (1) アジア地域全体(中国、インド含む)の単位互換は、ほとんどの場合、単位の価値を等価と見なし、互換することが可能になる。「換算」という作業はなくなり、交流のための事務処理は大幅に簡素化される
- (2) ヨーロッパ、北米、また、その他の地域レベルで発展しつつある共通の単位制度との互換性を飛躍的に向上させ、事務処理も相互に簡素化できる

AACsの2つの大きな課題

AACsの発展に関する最大懸念・課題事項は、

- (1) AACsが1単位として認める38-48学修時間数(または13-16授業時間数)の「幅」の中に入る異なる単位認定基準を「同等」と見なす大学がどれだけいるかという懸念である。認める時間数に幅を持たせ、地域全体の詳細な違いを緩やかに「同等」と見なす概念は、欧州のECTSと同じであるが、それがアジア全域でも通用するかは、不確定である
- (2) AACsは、学生の学習量について情報を明確に示すツールであるが、それぞれの科目内容の可視化とその質を保証する機能はないので、AACsの普及だけでは、最大の課題である相互信頼の上に立った教育交流、学生の流動性の向上は期待できない。よって、AACsの発展と共に、質を相互に見せ合い、信頼関係を構築する促進事業が必要である

VI. 学生のモビリティ促進のための AACsに関する取り組みと今後の課題

AACsの概念の再検討と普及活動(2010-2013)

- 1. ASEM¹⁸ 高等教育専門家会議:** すでに3回発表し、概念についてすでにアジア並びに欧州政府機関等に説明している。(2010, 2012, 2013年) そして、来週の8月26日はマレーシアのKLにて4回目の発表を行う
- 2. 欧米専門家への紹介:** 欧州委員会高官, TUNING代表, 元AAC&U¹⁹職員, Dr. Jane Knightとは、連絡を取り合い内容を調整
- 3. アジア諸国政府主催ワークショップ:** インド、カンボジア、タイ、台湾、フィリピン、ブルネイ、ベトナム、そして、日本でAACsの概念を紹介したワークショップを政府機関等が実施
- 4. 日本政府の関係部局への説明:** 文部科学省高等教育局留学生課並びに大学振興課、国際企画室には、概念を説明

ACCsの今後のさらなる発展の可能性

1

2013年5月、UMAP国際理事会（日本、台湾、フィリピン、タイ、マレーシア、ブルネイ、(大学・連盟代表)香港、マカオ、韓国、メキシコ、カザフスタンの政府関係・代理機関）は、AACs の概念を新たなUCTSとして正式に採用し、2013年度以降、学生交流事業において運用されることとなった。

2

SEAMEO-RIHED（東南アジア教育大臣機構高等教育研究所）が2012年にアジア10か国（アセアン7か国+日中韓）の比較研究を行い、アセアン共通の単位互換制度構築の可能性について検討した。現在、**アジア開発銀行によるメコン川流域諸国の高等教育支援プロジェクト**として、AACsの概念を活用した学生交流モデル事業の開始が検討されている

今後の課題(1)

1

授業時間数ではなく、学修時間数に基づく単位互換制度の構築

2

1 単位 = 38-48学修時間数というACCs(アジア学術単位)の概念の導入

3

単位互換は、科目の難易度に影響されずに学修時間数だけで公平に換算するように

今後の課題(2)

4

学修成果(Learning Outcomes) を活用して、教育の中身をシラバスや便覧に記載し対外的に見せ外部から評価しやすくする

5

他大学の信頼を向上させるためには、(1)シラバス、(2) 便覧、(3) 成績証明書の内容を充実させ公開する。そして、留学前には、学習計画書を交換する

6

単位・成績の互換に関しては、部局を超え、機関レベルの説明責任(Institutional Accountability) として、統一の基本的な考え方を構築する

今後の課題(3)

7

授業科目の内容が一致しない科目も例えば「自由研究」科目等の開設により、柔軟に単位を認定できるようにする。また1科目10～20単位等を認めるようなブロック式単位認定も促進

8

学生交流促進のため、海外の教員と協働で開発するジョイント・スタディ型国際カリキュラムの開設。特にオンライン(WebCT等)や集中講義型の授業科目を活用して

9

「Pass/Fail」による成績の互換の弊害を是正するよう努力する

ご静聴ありがとうございました

広島大学国際センター

堀田泰司

hotta@hiroshima-u.ac.jp

参考文献

- 1) 堀田泰司(2010) (研究代表者)『ACTS (ASEAN Credit Transfer System)と各国の単位互換に関する調査研究』平成21年度文部科学省・先導的大学改革推進委託事業報告書, 403 pp.
- 2) 堀田泰司(2011) 「東アジア地域における質の保証のともなった学生交流の挑戦と課題」『広島大学国際センター紀要』第1号, pp.67-78.
- 3) 国際協力機構 (2012), 「東南アジアにおける国境を越える高等教育の現状と課題に係る文部科学省・JICA合同調査」(Joint Study of JICA and MEXT regarding the Current Conditions and Issues of Cross-boarder Higher Education in Southeast Asia), ASIA-SEED, 178 pp. [in Japanese]
- 4) 堀田泰司(2013) 「第9章、ヨーロッパの高等教育の地域統合と東アジア」, pp.231-255, 黒田一雄(編著)『アジアの高等教育ガバナンス』勁草書房、337pp.
- 5) 堀田泰司(2014) 「透過性のある単位互換枠組みと国際連携: Asian Academic Credits (AACs)の可能性」『日本比較教育学』第48号(2014年3月)、特集「大学と地域的国際連携」2014年1月:pp. 93-103

Glossary

1. **ERASMUS:** European Community Action Scheme for the Mobility of University Students
2. **ECTS:** European Credit Transfer System
3. **SEAMEO** Southeast Asian Ministers of Education Organization
4. **UCTS:** UMAP Credit Transfer Scheme
5. **UMAP:** University Mobility in Asia and Pacific
6. **AUN:** ASEAN University Network
7. **AUN's ACTS:** ASEAN Credit Transfer System
8. **AACs:** Asian Academic Credits
9. **TUNING:** Tuning Educational Structures in Europe
10. **M-I-T:** Malaysia, Indonesia and Thailand,
11. **AIMS:** ASEAN International Mobility for Student Programs (Indonesia, Malaysia, Thailand, and Vietnam),
12. **ACD :** Asian Cooperation Dialogue
13. **ACD's ACTS:** Asian Credit Transfer System
14. **CAMPUS-ASIA:** the Collective Action for Mobility Program of University Students in Asia
15. **ACTFA:** Academic Credit Transfer for ASEAN
16. **CLAR :** Latin American Reference Credit
17. **CATS:** Credit for Accumulation and Transfer Scheme (in UK):
18. **ASEM** Asia-Europe Meeting
19. **AAC&U** Association of American Colleges and Universities